

3.4.2 2004年夏季(7~8月)分析結果

結果は、以下の表及び図としてまとめた。なお、値はすべてヒ素換算値とした。

表 3.4.4 2004年夏季(7~8月)地下水分析結果一覧表

図 3.4.1 2004年夏季(7~8月)ABトラック地下水 DPAA 汚染状況図

図 3.4.2 2004年夏季(7~8月)A井戸周辺地下水 DPAA 汚染状況図

図 3.4.3 2004年夏季(7~8月)B地区地下水 DPAA 汚染状況図

この夏の測定以降、ABトラック外周に設けたモニタリング孔でも地下水分析を行っている。

1) A井戸周辺

汚染分布は、初期の測定結果と同様、A井戸直近の深度30m付近が高濃度になっている。

A井戸直近の高濃度の汚染は、No.34孔の深度30mの34mg-As/Lを最高に、周辺のNo.7、13、34、37、39、70、72、81の計8孔の深度30mから10mg-As/Lを超える高濃度のジフェニルアルシン酸(DPAA)が検出された。

また、その周辺のボーリング孔では、高くても数mg-As/Lオーダーしか確認されないことから、高濃度の汚染域は非常に局所的と考えられる。

また、A井戸南のグラウンド北西角に位置するNo.27孔からも10mg-As/Lを越える高濃度のジフェニルアルシン酸(DPAA)が確認された(今回は1.7mg-As/L)。

2) A井戸南東90m(掘削調査地点)周辺

A井戸南東90m(掘削調査地点)周辺では、初期測定で高濃度汚染が確認されたNo.124孔と109孔を結ぶライン付近で、今回も同様の高濃度汚染が確認された。これらの内、No.110孔の深度10mで最高の150mg-As/Lが確認された。

また、No.83、103、110、117、124、125、129、185の深度10mから10mg-As/Lを越える高濃度汚染が確認されたのに加えて、No.124、83孔の深度20~30mからも20mg-As/Lを越える高濃度汚染が確認された。

3) B地区

B地区では、中心から西に約100m離れたNo.66孔において、深度10mで2.6mg-As/L、20mで0.8mg-As/L、30mで0.7mg-As/Lが確認された(初期調査ではすべてND)。

一方で、初期にB地区で最大の濃度が検出されたNo.170では、すべての深度で濃度が低下した(深度10mで0.37mg-As/L N.D、深度20mで0.4mg-As/L 0.003mg-As/L、深度30mで0.24mg-As/L 0.07mg-As/L)。

またB地区では、この夏の測定の結果、B地区中心で全体に濃度が低下する傾向がある一方で、B地区の東側と西側で濃度が上昇する傾向がある。

このため、汚染プルームが地下水の影響により変動している可能性が示唆される。

4) AB間

AB間では、初期の測定で最大0.1mg-As/Lの汚染が局所的に確認されていたのが、この夏の測定で、深度30mの汚染が0.055~1.5mg-As/Lの間で、つながるような分布となった。またその濃度は、全体にはAからBに従い低くなる傾向にある。

深度10mの汚染は、No.177の0.65mg-As/Lが最高になるが、汚染の連続性は見られない。

5) ABトラック外周

17孔すべてのモニタリング孔で、ジフェニルアルシン酸(DPAA)は検出されなかった。

図3.4.1 2004年夏季(7~8月)ABトラック地下水DPAA汚染状況図

単位: $\mu\text{g-As/L}$

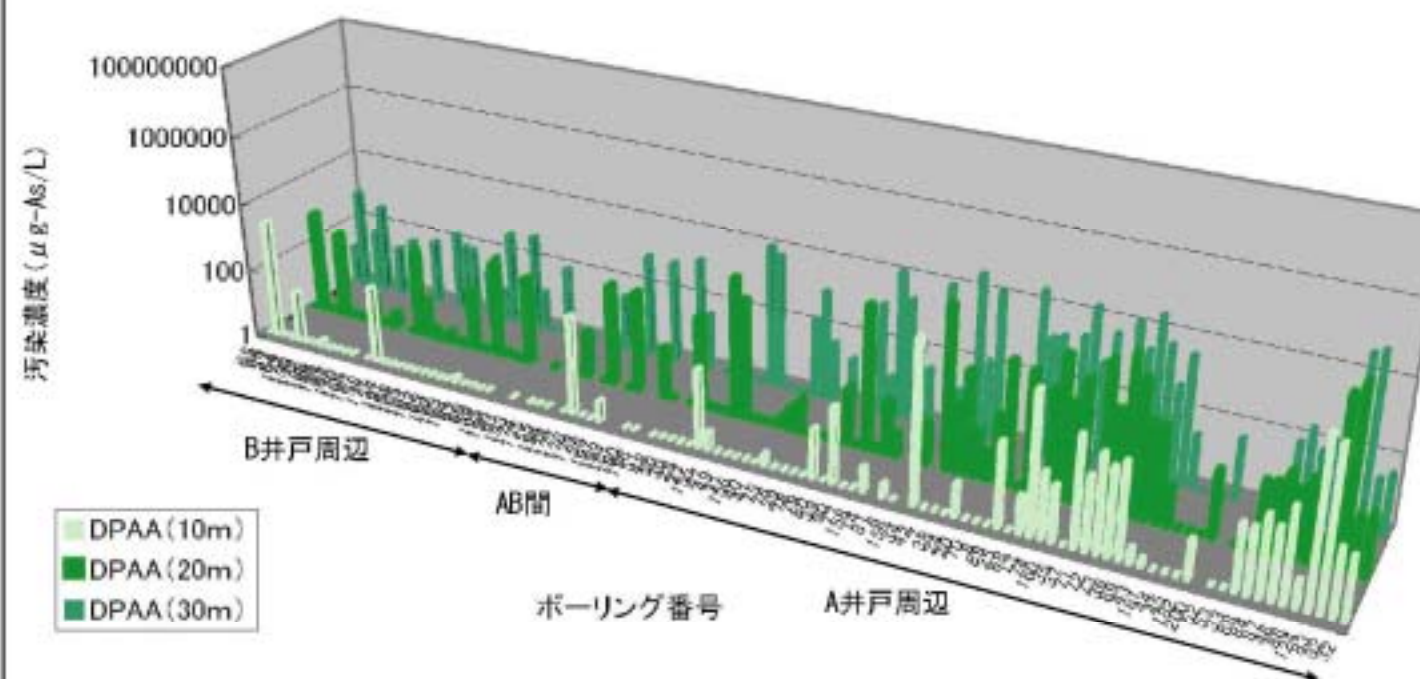
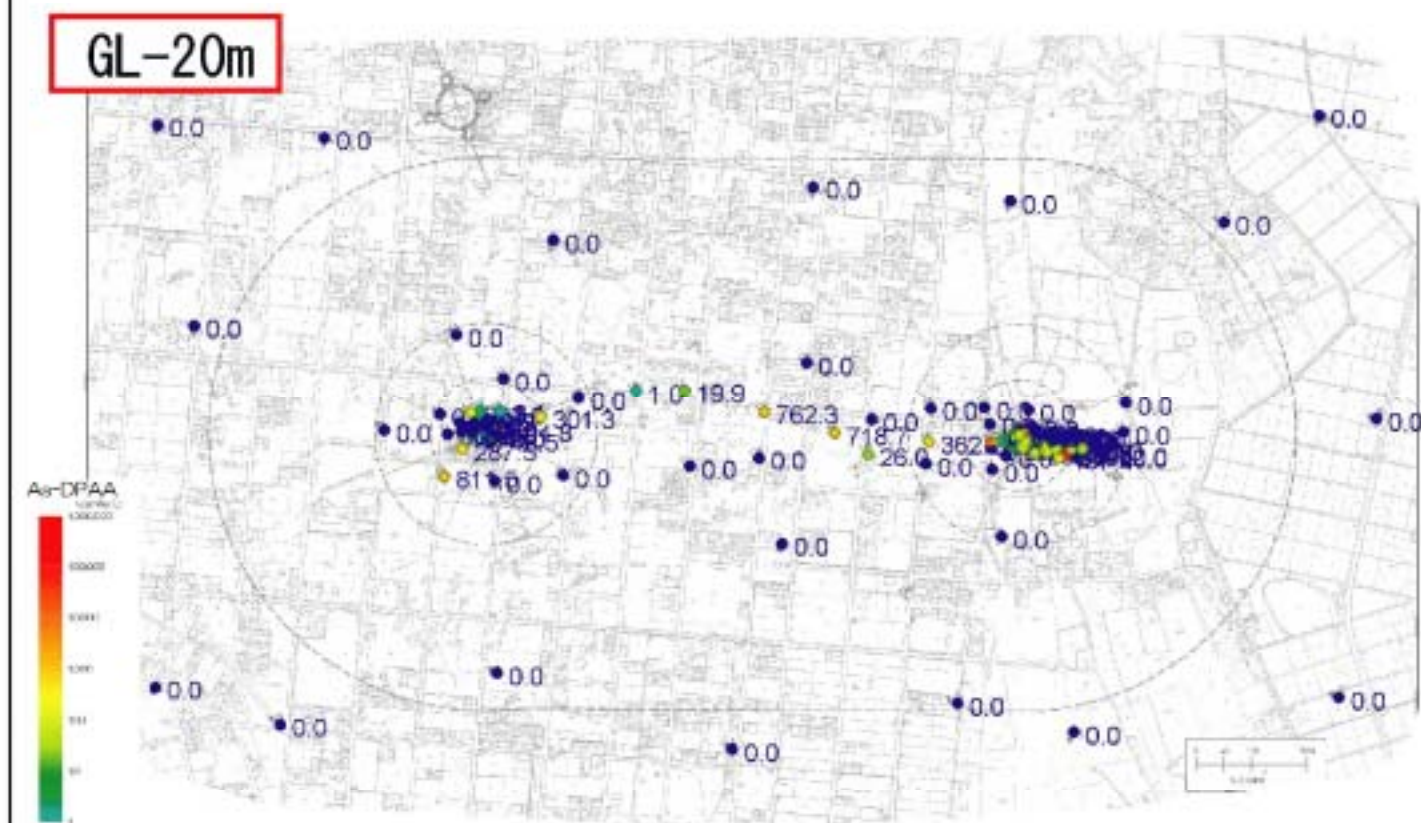
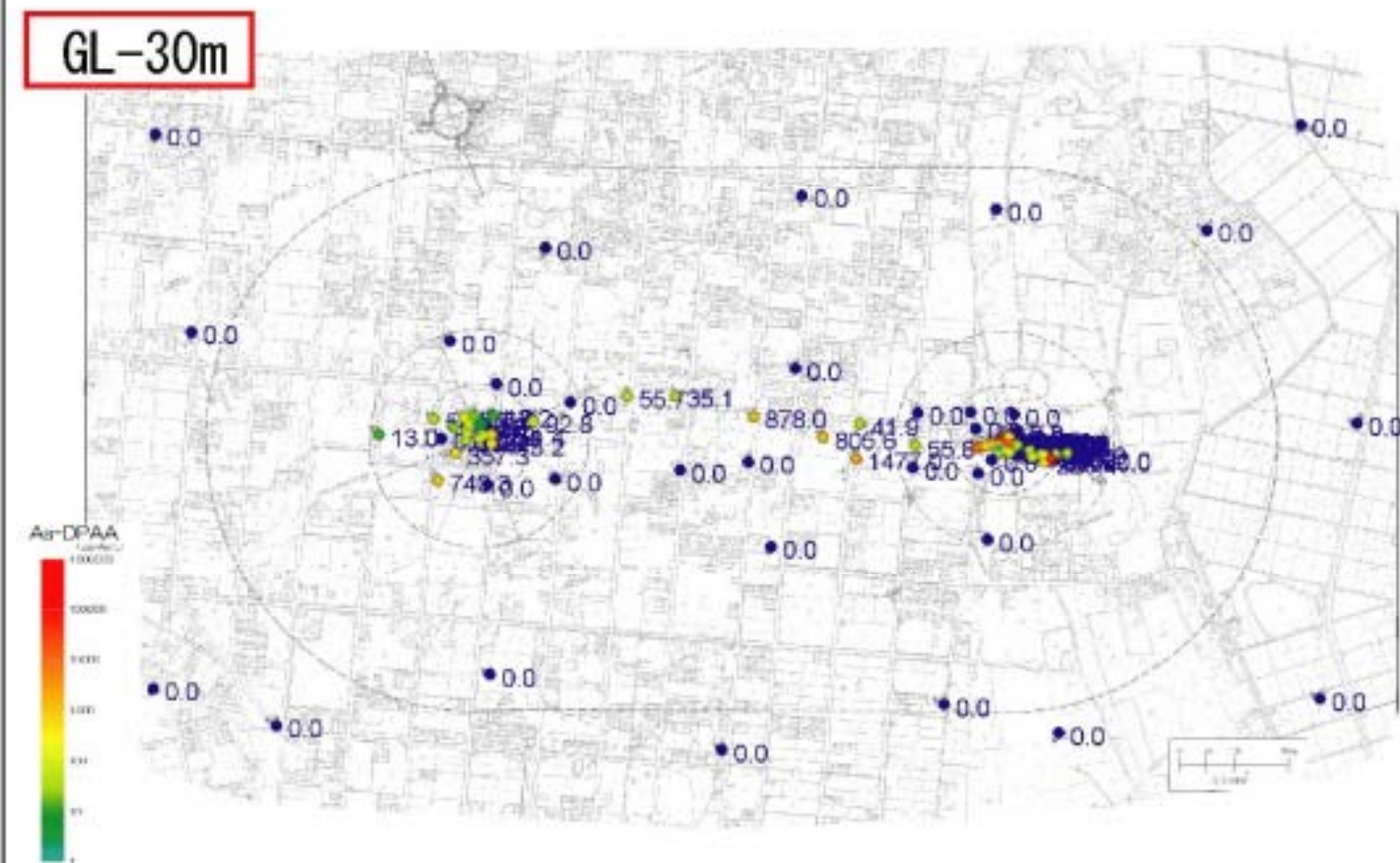
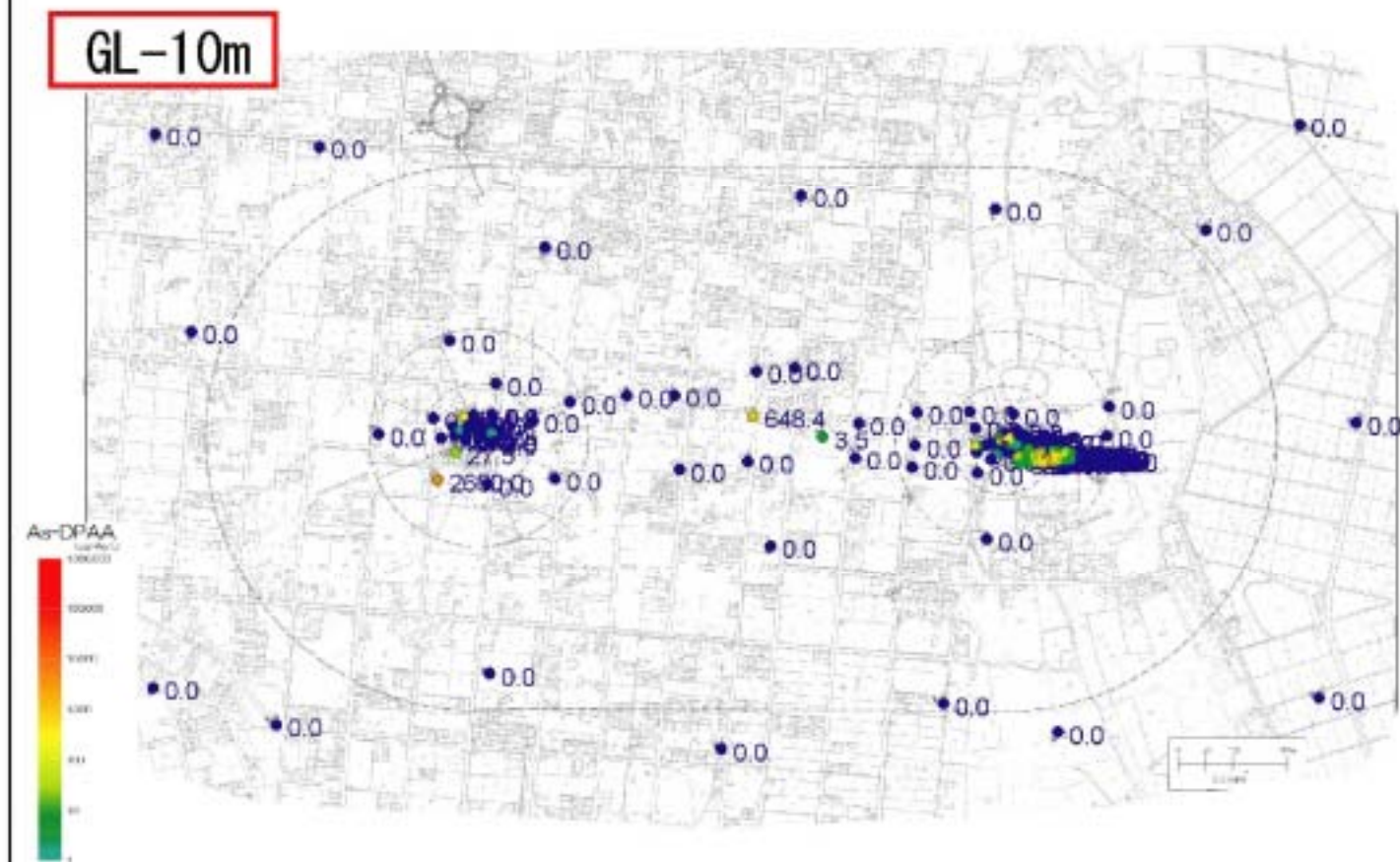


図3.4.2 2004年夏季(7~8月)A井戸周辺地下水DPAA汚染状況図

単位: $\mu\text{g-As/L}$

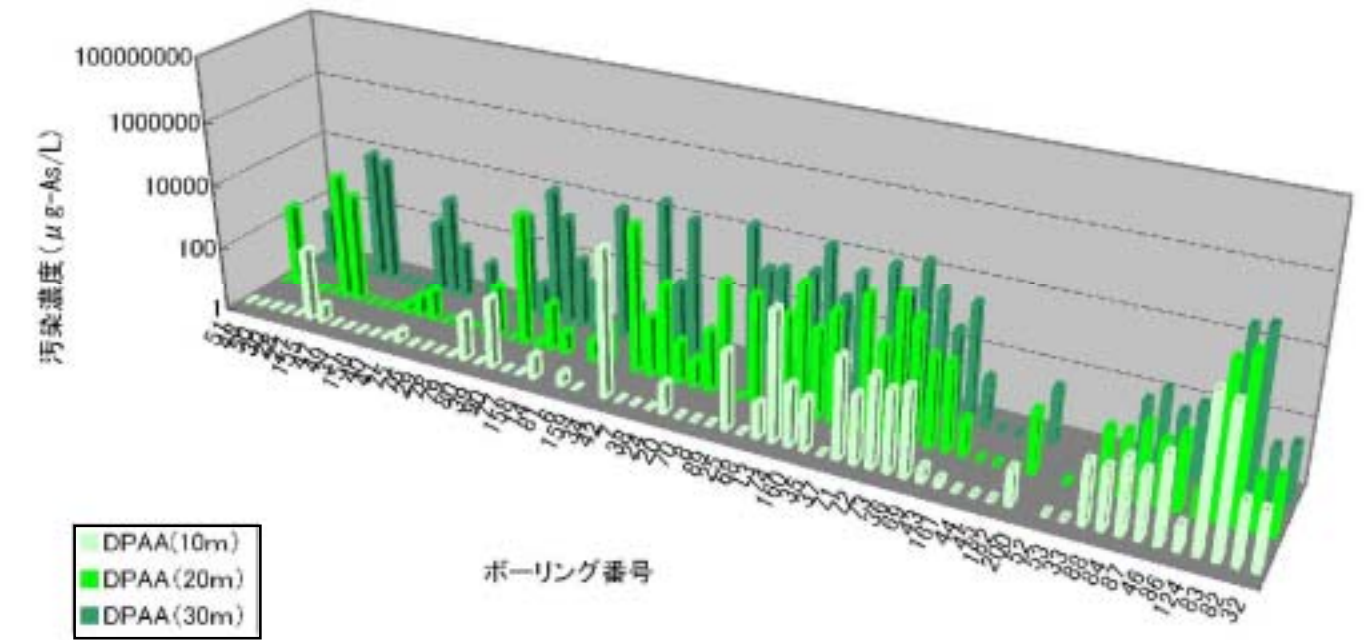
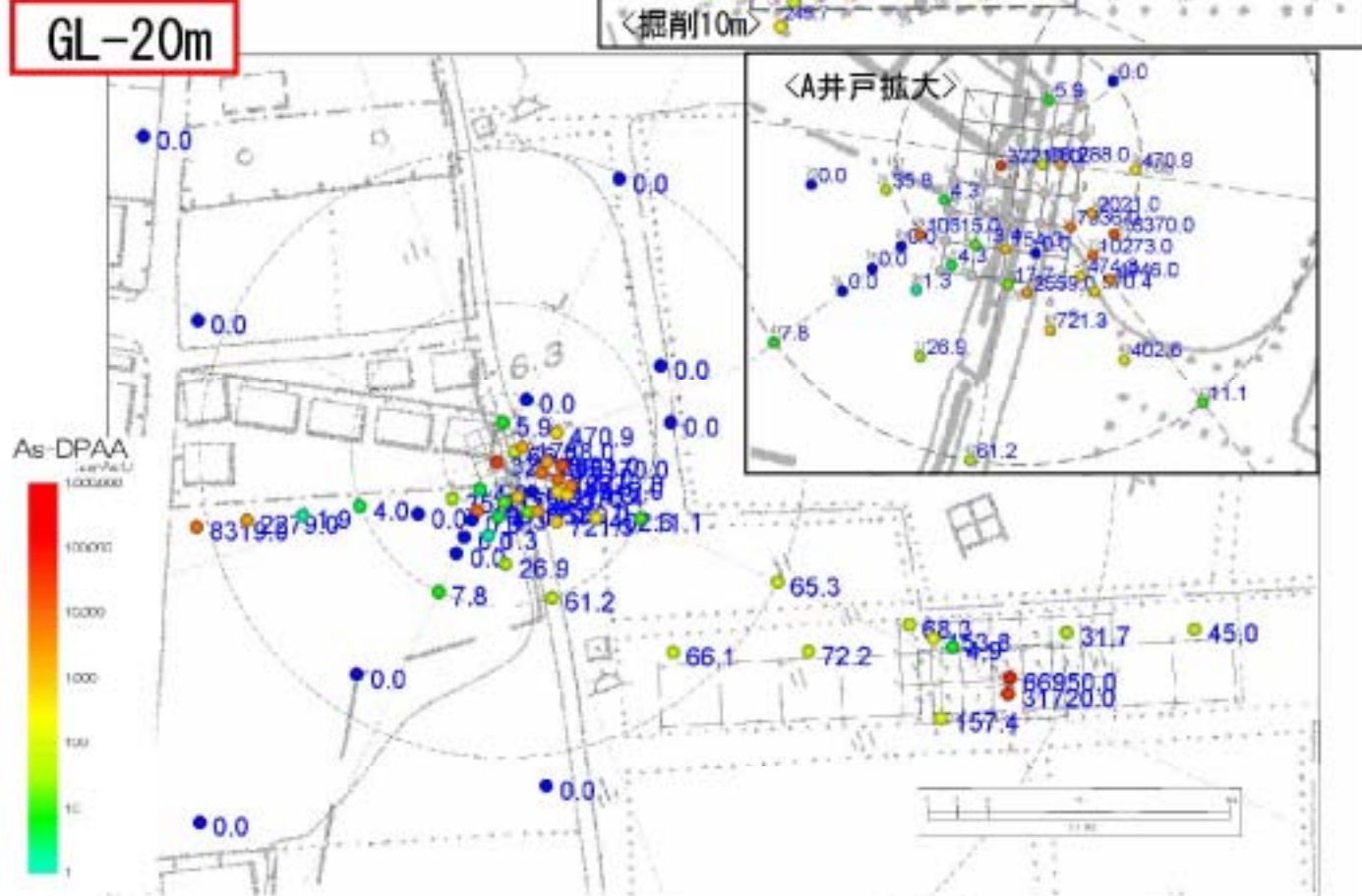
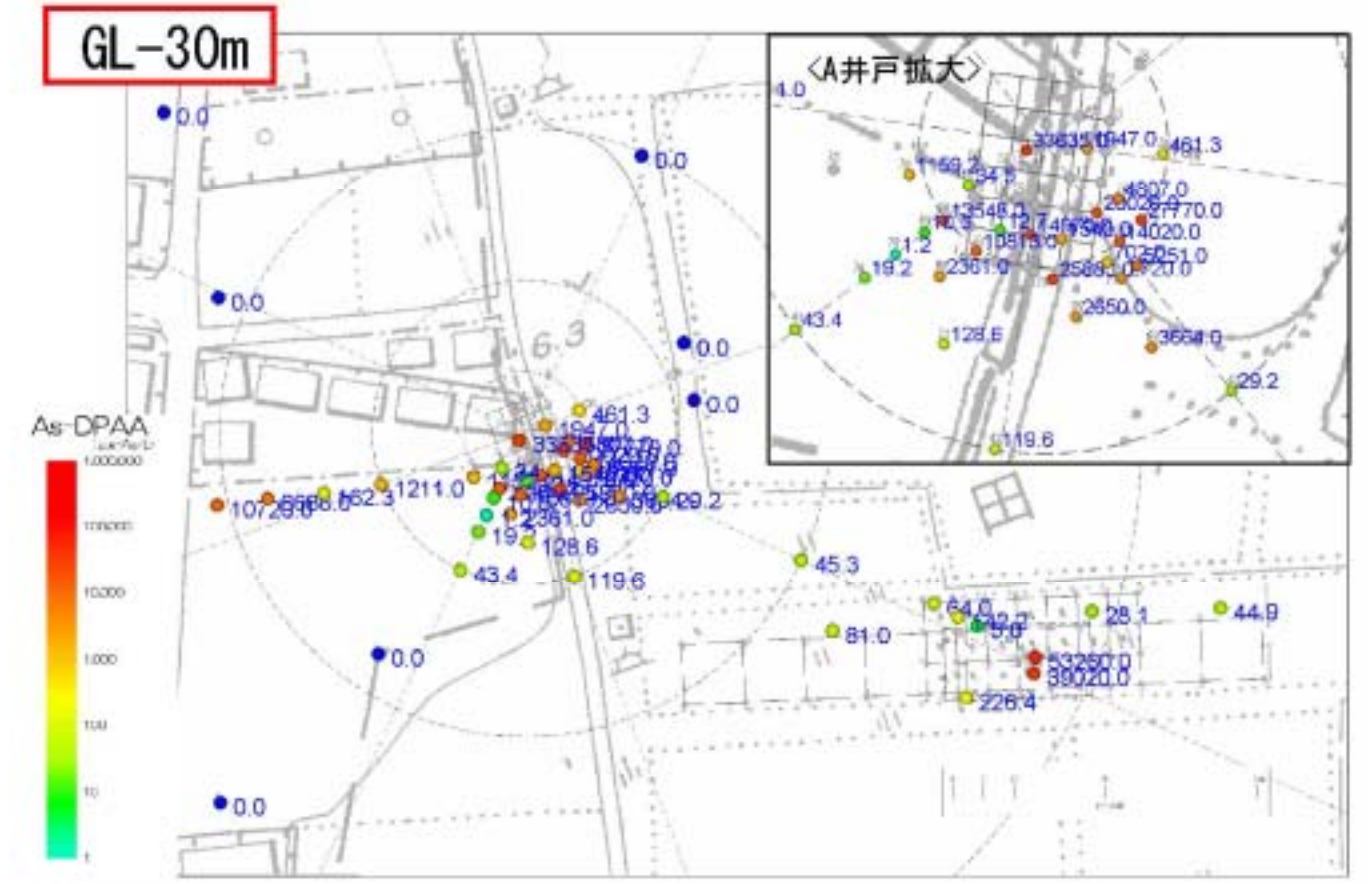
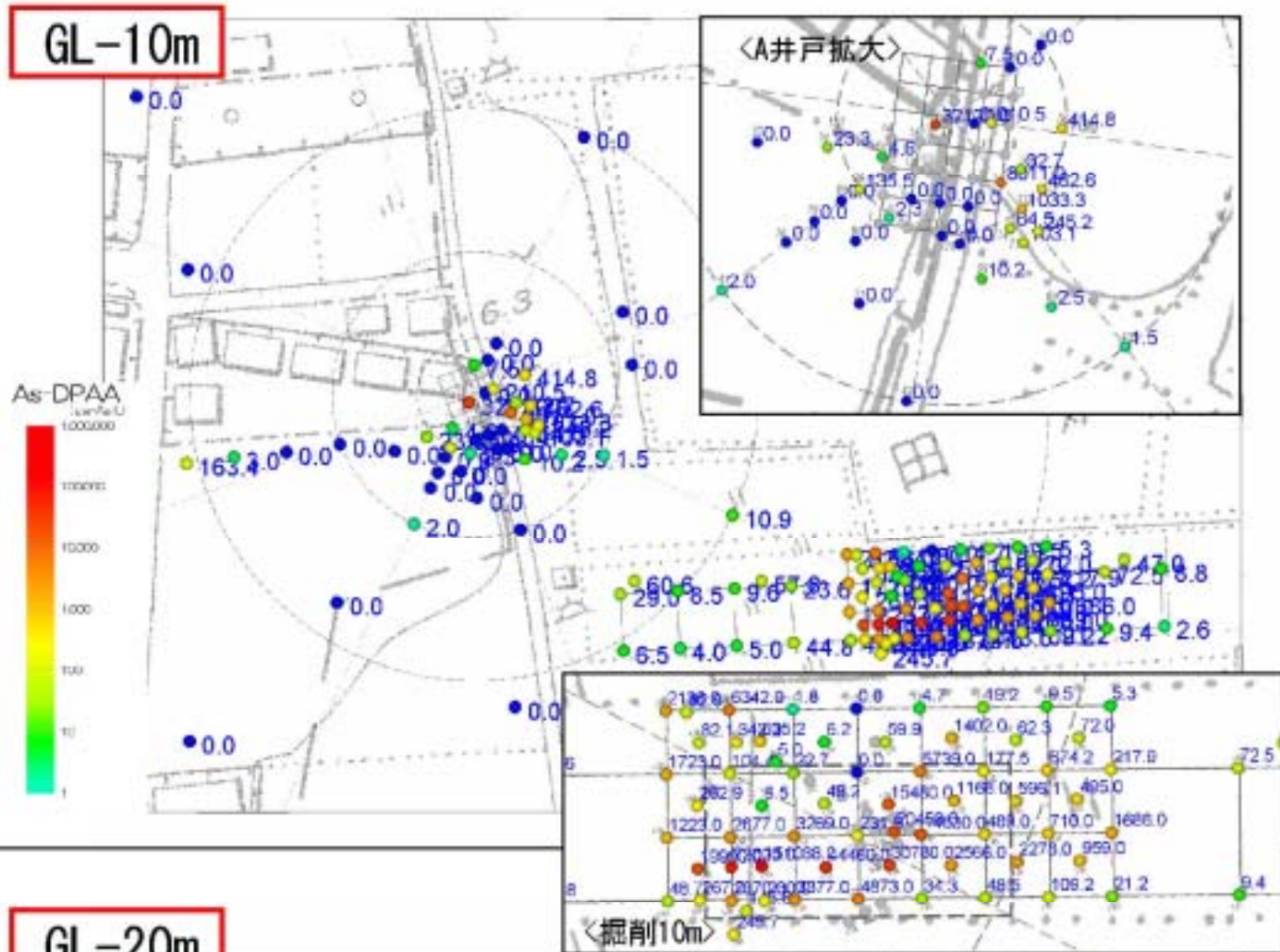


图3.4.3 2004年夏季(7~8月)B地区地下水DPAA污染状况图

单位: $\mu\text{g-As/L}$

